



町民の声

「次世代につなぐ 仕組みを」

特定非営利活動法人なかだ倶楽部
理事長 栗田伸一さん
(上中田 42歳)

昔「役年」という、神事や仕事で重要な役割を与えられる歳の頃のことを言い表す言葉がありました。伴って、不浄を避けるため厄払いをし、大役に臨んでいくものだったようです。いつしか「役」の意味が薄れ厄払いの習慣のみ強調され、現在は「厄年」と言い表すことで定着したようです。

かく言う私は42歳を過ぎ、町や地域での「大役」(消防団幹部・地区運営委員・PTA役員など)を引き受ける年頃となりました。

そのような年頃になり、私が懸念するのは、担い手が当然にいることを前提とした現在の「大役」承継システムが、人口減少が当然の実情に対応できず歪みが生じているということです。

世の中は、急速に多様性が求められる社会に変貌しています。田舎だから、社会の流れを気にすることなく昔のままの仕組みで良いと言える時代ではなくなりました。

次代の若者は、多様性のある組織を求め、安心して引き継ぐことのできる仕組みを待ちわびています。同じような話は、日本各地の自治体議員の担い手不足問題にも波及し始めています。

そう考えると、我々世代が任されている「大役」の中には、次の世代が安心してバトンを受け取れる「仕組みを構築すること」も含まれているのかも知れません。



基本は地域の話し合い

議会豆知識 No.16

●「初議会」について

一般選挙の結果により、初めて町長の招集を受けて開かれる議会を「初議会」という。議員が選ばれただけでは、議会は適法な活動ができる状態になく、まずは内部構成を整える必要がある、まさに初議会の使命と言える。

具体的には、会議を主宰する議長・副議長を決め、議員の議席の指定を行ない、各常任委員や議会運営委員の選任を行ない、議案が提出されれば直ちに審議できる体制を整えることにある。

「初議会」は、任期の起算日から概ね10日以内に開かれるのが普通であるが、金山町では、過去10回(40年間)で5月1日が2回、2日が7回、6日が1回と、そのほとんどが2日以内に開いており、いずれも平日の開催であった。先の町議会議員選挙の結果を受けての初議会は、5月1日に開かれ、初の休日開催となった。

この度の「休日議会」は、町議会史においても画期的な出来事であったと言える。

6月議会定例会は6月3日(月)～7日(金)の予定です

町民の皆様の傍聴をお待ちしています

ギョウコラム

No.10

最近、国会の大臣方々の発言の撤回、失言の取り消し報道が、当たり前になっていきます。人の声となつて、発し出された言葉を取り消せるものなら、こんなありがたい世界はないです。

言葉は、人の思いを受けて

命が宿る

言葉は、形ではない

思いを伝える手段

「愛」である

と言われます。

言葉には、人の思い・命が宿り、決して、消える事はありません。

人の世で暮らし、人と人との間を取り持つための、尊重する手段です。大切にしたいものです。

(文責 早坂 憲明)

発行責任者

■ 議会議長

柴田 清正

■ 議会広報常任委員会

■ 委員長
■ 副委員長
■ 委員

沼澤 道也
高橋 芳夫
高橋 浩樹
早坂 憲明

* * * * *